

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年11月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3890300068
事業所名	グループホームあかり
(ユニット名)	すばる
記入者(管理者)	
氏名	伊藤加代
自己評価作成日	令和1年10月1日

<p>【事業所理念】 共に生きる 「ユニット目標」 和：一致団結して穏やかで、和めるユニットに。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①ケアプランを基に支援を行い、問題や気づきはあるが、職員間での共有が出来ていない部分があり、個別支援ができていない。→①入居者1人ひとりのケアプランに沿って支援内容を記録し、気づきをユニット会で話し合っており、職員間で共有し、次の支援に繋げている。 ②町内清掃や、外部の防災訓練は参加し、関係作りはできているが、地域に向けて当ホームでの避難訓練への参加の声かけができていない。→②町内清掃への参加は毎年しており、地域の方との関係は少しずつ広がっている。避難訓練については、時間的な問題で地域の方の参加は難しい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所はかつてゴルフ場であったという広大な芝生の中に立地しており、眼前に宇和島城を望むことができる。近隣住民等も敷地内に自由に入居することができ、魚やパンの訪問販売が訪れている。利用者は掃き出し窓から容易に戸外に出て散歩を楽しんでおり、開放的である。開設当初より地域との交流を大切にして、公民館行事や町内清掃活動に参加したり、近くの小学校や保育園との交流を盛んに行っており、事業所は園児の散コースになっている。定期的に開催する認知症カフェの取組みは、関係機関を巻き込んで継続している優れた実践である。家族の要望に応じて看取りケアを実施しており、看護師を3名配置し、協力医と連携して24時間医療体制を整備して対応している。開放的で自由な環境の中で、利用者一人ひとりが持っている力を活かしながら、自分らしく暮らせるよう努めている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の言動や、会話から汲み取る努力をしている。	◎	/	○	利用者の背景を考慮しながら声かけを行い、思いや希望を引き出せるよう努めている。意思表示が困難な利用者は表情やしぐさから思いを汲み取り、家族にも聞きながら意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情や、家族の意向等を聞き、検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時や月1回のお便りで状況を報告したり、家族から報を集めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシートや24時間シートを活用し、本人の思いを共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	ユニット会でモニタリングを通して、本人の思い等を話し合い、身落とさないよう留意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	アセスメント作成時、本人や家族から情報を収集している。	/	/	△	入居時に利用者や家族から情報を聴取するとともに、関係機関からの情報や医療情報を収集して、生活歴や暮らしの様子を記録している。利用者の馴染みの暮らし方やこだわり等、入居後に聞き取った情報を追記していくことで、利用者理解がさらに深まることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	現状を把握し、本人の言動や表情など気付いたことを24時間シートに記録し、状態の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	表情や言動に注意し、24時間シートに記録して、ユニット会で情報の共有を行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	毎日の申し送りで、その日1日の様子や体調の変化を把握するよう、努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	健康チェックシートや、24時間シートを確認し、把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントや24時間シートを利用し、カンファレンス等で何が必要か検討している。	/	/	○	個別性を大切にして、利用者が持っている力を発揮しながら暮らせるよう生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会で、介護計画に基づき、本人がより良く暮らすには何が必要か話し合い、変更があれば介護計画書を作り変えている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の希望を聞き、課題を明らかにし、職員全員で目標を決め、ケアプランに記載している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護認定更新時に本人や家族から意向を聞き、その内容をケアプランに反映させている。	/	/	/	介護計画作成担当者が作成した原案をもとに、職員が話し合って介護計画を作成しており、具体的なサービス内容が記載されている。利用者や家族の意向が丁寧に聴取されており、介護計画に反映されるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族の面会時に、情報交換や、意向の確認に努めている。また変化があった際は、その都度カンファレンスを実施し、意見やアイデアを反映している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	家族に本人の趣味や特技を伺い、それを盛り込んだケアプランになるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	介護計画を作る際、担当者会議を行い、家族に支え手としての協力は依頼し、盛り込んでいるが、地域の人達の協力体制は今の所盛り込んでいない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランの内容を個人ファイルに貼り付け、職員全員で把握、共有している。	/	/	/	ユニット会議で介護計画の検討を行って内容を理解しており、計画表を個人ファイルに貼付して、常に確認しながら24時間支援記録に実施状況を記載している。日々の暮らしの様子や本人の言葉に注目して記録を残している。現在記録の充実に取り組んでおり、「支援内容と結果、気づき欄」を設けて記録し、モニタリングに反映させるよう努めている。今後は利用者一人ひとりの職員の気づきや工夫、アイデア等記録の充実に努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	24時間シートに実施の有無をチェックし、支援に繋げている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子を24時間シートに、身体状況は健康チェックシートに記録している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	24時間シートに、一人ひとりの言動や、気になったことは記録しているが、工夫やアイデアはあまり記録されていない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に1度見直しを行い、状態の変化に応じて行うこともある。	/	/	/	介護計画は6か月毎に見直ししている。毎月開催するユニット会議で計画の実施状況を確認しており、状態に変化がある場合は、その都度変化のない場合も6か月毎に介護計画を見直し、現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月ユニット会で、モニタリングを行って現状確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合は、随時家族、本人と話し合っており、状態に即した新たに計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のユニット会や、緊急案件がある場合は即座にユニット職員が集まり、カンファレンスを行っている。	/	/	/	毎月1回ユニット会を開催して検討しているほか、申し送り時に気づきや提案を出して話し合っている。また、緊急時はその都度協議しており、検討した内容は申し送り項目に記載して共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	月1回、会議を開き情報の伝達や、研修内容の報告は行っており、意見交換もできてはいるが、まだまだ活発に意見交換ができていないといえない。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月第1、または第2水曜日に、職員全員参加することになっており、勤務表にも日時の記載があるため、全ての職員は把握し、参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	夜勤の職員や体調不良で参加できなかった職員は、ユニットリーダーが伝達している。また議事録を作成し、その確認も行っている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日々の事は日誌や、申し送りで伝達しており、振り返りが必要な場合は連絡ノートの記録したものを確認し、共有している。	/	/	/	利用者の状態の変化や内服薬の変更等、共有すべき情報を申し送りノートや日誌に記載して共有し、サインをして確実に伝達できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者の様子や、業務連絡は申し送りや日誌に記載し伝達しており、家族とのやりとりや、支援に関する細かな情報は連絡ノートに記載して情報共有を行っている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望を聞いて、墓参りやドライブに行けることもあるが、ル容赦の重度化もあり、1人ひとりの希望には応えていない。	/	/	/	飲み物のメニュー表を作成して好みの飲み物を選んでもらったり、図書館で借りたい本を選ぶ機会を設けるなど、暮らしの中で自己決定ができるよう支援している。また、利用者一人ひとりが得意分野を活かして役割を發揮できるよう支援しており、職員は感謝やねぎらいの言葉を返して利用者の笑顔を引き出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	飲み物を選んで頂きやすいメニュー表を作成したり、図書館に行き、借りたい本を選んで頂くような機会を作っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個人個人の会話の中から思いや希望を聞くように働きかけたり、本人が自信をもってできることを暮らしの中から見出すような支援を取組んでいる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	1人1人のペースや習慣を把握し、それに合わせ支援するように努めている。また起床や就寝はタイミングを見つけ声かけする場合もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	できることを役割として手伝っていたり、自信に繋げ、生活にメリハリが持てるよう努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	、表情や仕草から汲み取るように努めているが現時点では意思疎通の図れない利用者はいない。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修に参加し人権や尊厳については学んでいる。声かけの仕方、言葉使い、声のトーンに気を付け支援している。	○	◎	○	適宜新人研修を実施して、人権や尊厳について学ぶ機会を設けている。言葉遣いにも気をつけ、威圧感を持たれないよう目線を合わせて会話するよう指導している。トイレ誘導時は耳元で声をかけるよう配慮したり、入浴介助等必要に応じて同姓介護を心がけている。居室ドアは利用者の意向で開閉しており、入室時はノックと声かけを行っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	本人のプライドを傷つけないような声かけの仕方に努めている。特にトイレの誘導や着替え等、耳元でさりげなく声かけて対応している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄の際、トイレにお連れした後は少し離れて見守りしたり、男性職員には抵抗がある利用者には女性職員で対応している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	職員が居室に入る前は、声かけ、ノックをして入室するようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時にプライバシーの保護や、守秘義務について研修をおこなっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	共同生活と認識しており、利用者個人個人の持っている力が職員の助けとなっていることは多い。特に畑仕事や、正月の締め飾りを作る際には智慧と力を発揮されている。	/	/	/	利用者同士が気にかけて危険を知らせたり、家事を協力し合いながら行う場面が多く見られる。職員は利用者の関係を把握して、トラブルにならないよう適宜介入している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士、声をかけ合ったり、気遣ったり、支えあっていると感じている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	デッキにベンチを設置し、別ユニットの利用者と会話を楽しんでいる。利用者の中には難聴の方もおり、会話に入っていけない場合は職員が間に入り、伝えている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起きないよう支援しているが、不安が生じや時は職員が傾聴し、寄り添うよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前に本人や家族に聞き、入所後は面会に来て頂く友人、親戚より伺って、把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人と、以前暮らしていた家に行き、庭の花を摘んで自室に飾ったり、馴染みの美容院にお連れして把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	年1回、友人が迎えに来て同窓会に参加している。また地元の墓参りや、馴染みの場所に行くなど、関係が途切れないよう支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた方と、ゆつくり話ができるよう、椅子やテーブルを設置し、お茶を提供するなど工夫している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	1人1人の希望に沿って出かけることは困難となっているが、天気の良いときはデッキで昼食を摂ったり、日光浴をおこなっている。	○	○	○	事業所は平屋の建物で、どこからでも広いデッキに出ることができる構造になっており、利用者が三々五々外気浴に出たり、職員に付き添われて散歩をしている様子が見られた。車いす移動の利用者が増え、遠出は困難になっているが、レンゲやコスモス等季節の花見物に福祉車両を活用して出かけている。重度の利用者も、暖かく風の無い日にはデッキに出て日光浴ができるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	特に外出支援の協力は得ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	デッキに出たり、芝生を散歩するなど気分転換を図っている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	行事に参加したり、外出支援では職員の数を増やしている。また家族の協力により、外出に出かける利用者もいる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	研修を通して学んでいる。利用者の行動や心理状態の原因がどこにあるか背景を探り取り除くケアができるよう努めている。	/	/	/	見守り介護に努めており、ユニット会でのモニタリングを通して利用者一人ひとりが持っている能力を把握して、過剰な介護にならないよう留意しながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	レクリエーションや体操、歌に合わせた踊り等を取り入れ、機能の維持、向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の出来る事を見極め、見守りながらサポートしている。また手伝えば出来るようなことは、さりげなくサポートしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活から把握に努めている。	/	/	/	毎日のカレンダーめくりや調理の手伝い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除機やモップかけ等、得意分野を活かして役割を持って生活できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	認知症の進行が認められても、役割や楽しみの場面を作る取り組みを行っている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	保育園との交流や、地域の清掃活動に参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	外出時に好きな服を選んで出かけたり、毛染めをして、身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。				季節に合わない洋服を着ていたり、衣類の汚れに気づいた時は、それとなく声をかけて居室に誘導して着替えてもらっている。利用者は皆清潔でお洒落な服装で過ごしており、外出時は化粧をする利用者もいる。馴染みの美容院へ職員が付き添ったり、ボランティアによる訪問理美容があり、重度の利用者を含め、お気に入り髪型にする等、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ボランティア散髪の際、気に入った髪型にしてもらったり、ご自分で編んだセーターを選んで着られたりしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が選びやすいようアドバイスしたり、一緒に選ぶなど支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	状況にあった服を、ご本人と相談しながら選んで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを傷つけないよう、さりげなく声かけている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	行きつけのある方は定期的に行っているが、最近は重度化し、行けなくなっている方が多い。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族や、ボランティア散髪の協力を得て、本人らしい身だしなみができている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	季節にあった旬な食材を使ったり、利用者野菜を切ってもらい、一緒に料理することで楽しめるよう工夫をしている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理の一部を手伝ってもらったり、買物に同行してもらい品物を一緒に選んでもらっている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買物や調理、後片付けを手伝って頂くことで、自信に繋がりが自ら声をかけていただいている。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に本人、家族から聞き取りを行い、リストを作成し、把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	メニューは決まっているが、その時の旬な物を使い、季節感を感じて頂いたり、ホームの畑で収穫したさつま芋から、昔の話が出るなど懐かしさを感じていただいている。			○			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	それぞれの状態に合わせた形態や、使いやすい食器等で工夫している。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	今まで使っていた食器を持ってきて頂き使用している。状態にあわせ、使いやすい軽い食器に変えるなど工夫している。			○			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事をし1人1人の様子を見守り、必要に応じてサポートを行っている。			◎			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	オープンキッチンで、調理中にはおしゃべりが解りやすくなっている。において食事の時間と理解し、居室から出でる利用者もおられる。		◎	○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	1人1人の食事を把握しており、摂取量が少ないと感じた時は補助食品でカロリーを確保している。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が少ない場合は補助食品で補っており、水分摂取量が少ない場合は、のど越しの良いゼリー状の飲み物を提供したり、回数を増やして対応している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理方法は職員間でアドバイスしたり、調べて確認している。献立は管理栄養士によりバランスを考えて作っている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	ハイター消毒や日光消毒、食材は買った日の日付けを書き入れ、早めに使用するよう安全に気を配っている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科往診の際口腔ケアの必要性や重要性を指導していただいたり、研修に参加して学び、理解できている。				2週に1回歯科医の訪問診療があり、利用者全員の口腔内の健康状態をチェックして指導を受け、口腔ケアに活かしている。毎食後の口腔ケアや毎晩義歯の洗浄を行う等、口腔内の清潔が保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科往診時の記録があり、1人1人の口の中の状態の把握ができる。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士により、指導を頂いている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後義歯の手入れ、うがいの誘導、就寝前は義歯を外し、義歯洗浄剤につけている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	健康チェック表に口腔ケアの確認チェックを記載している。利用者に合わせて口腔用スポンジを使い舌の手入れもやっている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯科医に相談し、訪問診療を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄ケアの研修で学んでいる。状況に合わせ、日中はリハビリパンツを使い、トイレで排泄、夜間はポータブルトイレで排泄を行ったり、オムツにする等、意志の疎通が図れる利用者は相談して決めている。				利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、日中、夜間ともにトイレで排泄ができるよう支援している。排泄用品を決める際は、その都度利用者の意向を聞いた上で、職員間で話し合いその時の状態に応じた適切な排泄用品を選択する等、現状に即した支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	不眠、不穏、食欲低下など、日中の様子を通し、看護師から説明を受け、理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェックシート、日誌に記載し、利用者の排泄パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	健康状態や、状況に合わせ、話し合っで見直しをしている。		◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給、運動等取り入れ工夫しているが、改善しない場合はかかりつけ医師に相談している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間を決めて誘導したり、本人の表情や、仕草を見極め声かけを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人、家族に必要性を説明し、まずは本人の意向に沿ったものを使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中はリハビリパンツでトイレに誘導し、夜間はオムツで対応する等状態に合わせて使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	体操や水分補給で自然排便を促しているが、何日も排便がなければ緩下剤や浣腸に頼ることもある。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	入浴の有無を確認し、時間の希望も聞いているが、希望に添えていない状況。		◎	○	時間帯等職員体制で決めることもあるが、入浴の長さや湯の温度は利用者の好みに合わせる等柔軟に対応している。皮膚の弱い利用者には低刺激のシャンプーを使用したり、それまでの習慣を尊重して洗身部位によりタオルを変える等配慮している。重度の利用者もリフトを活用して湯舟に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴時、会話しながらゆっくりくつろいで入浴できるようにしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人で出来る部分は見守って、出来ない部分は介助にて、安心して入浴していただいている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴の拒否がある利用者の理由を会話の中から探り、それに合った声かけしたり、入浴カレンダーを作成し、入浴出来た日に花丸を入れるなど楽しい雰囲気作りをしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェックを行い、顔色や表情を観察し、入浴の可否を決めている。入浴後は必ず水分補給をしている。				

愛媛県グループホームあかり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間は夜勤職員により、1時間に1度の訪室を行い状態確認している。申し送りや、24時間シートで確認し、把握している。	/	/	/	日中を活動的に過ごして、夜間はなるべく眠剤に頼らないで眠れるよう支援しており、眠剤を常用している利用者は少ない。不眠が続く場合は主治医を相談しながら眠剤を調整している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やしたり、日光浴をして体内時計を整える工夫をしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	昼夜逆転で、日中ウトウトしている利用者は、日中、活動的に過しても変化なく、主治医と何度も相談して、薬の調整を行った。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の意思に任せている。利用者の中には、午前、午後1時間程休まれる方もいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	友人と手紙のやり取りをしたり、携帯電話で家族と連絡をとっている利用者もいる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人より要望があれば行いが、今のところ要望は出ていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話がかかってきた場合は、お繋ぎし、居室でゆっくり話していただいている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人にお渡しし、返事を書いたものを職員がポストに投函している。また公的なものは家族に連絡し、お渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人から電話を掛けたいとの要求があれば、職員が取り次ぎ、状況を説明し、協力して頂いている。家族にはいつでも掛けて良い事をつたえている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人の物を購入する際は、本人に財布を渡し、支払いを行っていただくよう支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	自立されている方は買物に行き、お金の所持や支払いを行っているが、一部の方のみ。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的には行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在お金の所持をしていない。希望があれば、家族に相談し、金額など決めて頂く。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時家族と相談し、必要な物品があればホームで管理している小遣いの中で購入している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現金出納帳で管理し、毎月その月の収支をコピーし、家族に送付している。また、家族が面会に来られた際に、出納長と、残金を確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	家族での対応が困難な場合は、必要に応じ、対応を検討し、取り組んでいる。(家族が参加しているコンサートに同行等)	/	◎	○	他科受診に職員が付き添い、病院で家族と待ち合わせて受診している。家族のコンサート鑑賞に出かけたり、職員付き添って墓参りに行くこともある。過去にはキリスト教徒の利用者のために、教会へ日曜礼拝に付き添う等、利用者の意向に沿い柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先の花壇には、季節の花が植えてあり、玄関には、利用者の家族が作成した掲示物を掲げている。	◎	◎	◎	かつてゴルフ場であったという広大な芝生の中に立地しており、外来者も利用者も敷地内に自由に出入りすることができて開放的である。玄関先には花壇が設けられ、季節の花々が植えられている。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に応じた掲示物を飾ったり、ソファを置き和めるような雰囲気をつくっている。廊下の突き当たりには、図書コーナーを設けており、気に入った本を選んで頂くようにしている。	◎	◎	◎	共用空間には、オープンキッチンと椅子席、ソファ席があり、広々として明るい空間になっている。掃き出し窓から容易にデッキや芝の庭に出ることができ、眼前に宇和島城を望む絶景になっている。広い廊下の要所所にソファが設置され、くつろぐことができる。廊下の突き当たり設けられた図書コーナーには、定期的に市立図書館で借りた図書が並べられており、ベンチに腰掛けて自由に読むことができる。毎日清掃をして環境整備に努めており、清潔な印象を受ける。壁には職員と利用者が作成した桔梗やコスモスのクラフト作品が飾られている等、季節を感じる工夫をしている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、掃除を行い清潔に過して頂けるよう努めている。					○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に応じた野菜作りや、花の水やりで季節感を感じて頂けるよう努めている。					○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	デッキにはベンチを設置し、気の合う利用者同士で話したり、図書コーナーでゆったりと本を眺むなどしている。またソファでDVDを数人で観ていることもある。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉やカーテンで仕切りをしたり、浴室のトイレには「入浴中」と書いた札を掲げている。						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所前より使っていた衣類や家具、仏壇など馴染みのものを置き、居心地良く過ごしていただいている。	◎			居室には広いクローゼットと洗面台が設けられ、利用者は机や椅子等馴染みの家具を自由に配置している。テレビやCDプレイヤーを持ち込んだり、人形や花、家族写真を飾る等居心地の良い空間になっている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	風呂場やトイレにプレートで解りやすく表示している。また、廊下には手すりを設置し、安心、且つ自立した生活ができるよう配慮している。				○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	洗剤や消毒液は鍵のかかる扉に保管したり、目の届かない場所に置いている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	共有スペースに新聞や雑誌を置いて、自由に観たり、夏場は自由に水分補給ができるよう麦茶を設置している。						
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関は施錠はせず、チャイムを設置しており、ユニット間の扉も開放しているため、自由に行き来ができ、心理的不安や、閉塞性はないと感じる。	◎	◎	◎	職員は施錠も拘束になることを理解しており、日中玄関やユニット入り口は施錠されおらず、自由に行き来することができるほか、掃き出し窓からも出入りすることができる。帰宅願望の強い利用者に対しては、一緒に歩いたり、自宅付近までドライブしたり、見守り体制を強化する等の工夫をし対応している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所の際、家族に説明し、理解を得ている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	施錠なく、チャイムで対応している。また他ユニットと連携しながら対応している。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	最初にフェイスシートで把握し、病状の変化がある時には申し送りやカンファレンスを行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックし、健康チェック表に記載。特変あれば2日誌に記載し、看護師に相談している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	各ユニットに看護師が配置されており、気になることがあれば協力医に相談できる体制を作っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	家族に確認し、希望があればそちらを優先している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族に確認をとり、協力医と相談した上で適切な医療がうけられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診には家族も同行して頂き、同行できない時は電話にて報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供や本人の状態がわかるように、口頭で伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	頻回に見舞いに行き、病院側ともコミュニケーションをとっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	定期的な通院。時にソーシャルワーカーと情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	各ユニットに看護師が配置されており、少しの変化でも相談ができる。必要に応じ、協力医にも相談できる。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医、看護師と日頃より連携を取っている。協力医は緊急時でも快く対応して頂いている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェックを行う事で、少しの変化に気づき早めに治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	1人1人の内服の状況の表を作成し、目的、用法、用量は理解しているが、副作用は理解しているとは言えない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝、昼、夕、就寝前と個別に袋に入れ、名前を表示し、飲み忘れや誤薬を防いでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬変更時は、特に注意し他職員と確認し、内服している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態や変化は記録に残し、状態に応じ、協力医に相談している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に概ね説明している。状態に変化があった時その都度家族と医師との話し合いの場を設け、家族の意思や方針の確認を行っている。	/	/	/	開設当初より家族の要望に応じて看取りケア実施しており、看護師を3名配置し、協力医と連携して24時間医療体制を整備して対応している。様態の変化があればその都度、家族と医療関係者が話し合い、方針を共有しながら看取りケアを実施しており、食事や寝具を用意して家族が泊まれるよう配慮して協力しながら看取りをしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	必要に応じ、カンファレンスを行い、情報を共有し、方針を伝えている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	重度化、終末期の対応に経験が浅く、不安を感じている職員は少ない。連絡体制を整え、常に声かけ、説明を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に家族に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	必要に応じ、カンファレンスを行い、情報を共有し、方針を伝えている。協力医や、時に訪問看護を導入し、医療との連携を取りながら本人や家族を支えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いに耳を傾け、介護職、看護職それぞれの立場で心理的支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修で学ぶ機会があり、看護師からも指導がある。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修で学んだ事をマニュアル化し、ミーティングなどで伝達している。また、感染予防用セットも準備し、看護師の指導もある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や医療機関の研修に参加し、取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の流行の兆しが見え始めると、協力医と相談しワクチン接種やマスクの着用、アルコール消毒の徹底をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関、各ユニットリビングに消毒液、マスクを設置し、使用を徹底、また来客者にも使用をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	正直に現状を伝え、家族もチームの一員として携わっていただくよう接している。	/	/	/	花見、夏祭り、敬老会等の行事を掲示板や便りで案内して家族と一緒に支援をしたり、楽しんでもらっており、行事の後に家族会を開催して話し合いや交流の機会を設けている。毎月便りを発行し、担当職員から手書きの手紙を添えて状況を伝えるほか、県外に住む家族へは、電話で状況を伝えている。事業所の運営面や職員の異動等については、年2回の家族会や面会時に説明したり、遠方の家族には郵送で報告している。家族面会時は必ず声をかけて話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の状況を報告したり家族からの要望等を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ゆっくりと過ごして頂けるような環境作りはできている。遠方から変えられた家族は宿泊される方も多い。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭りや花見、敬老会など行事に参加して頂いたり、時にはおせち料理作りに参加する事もある。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月の広報で写真を掲載し暮らしぶりを見て頂いたり、月1回の手紙で近況を伝えている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	家族が面会に来られた際、気になっている事や心配な事をお聞きし電話等でその後の経過報告を行うよう始めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	入所に至るまでの暮らしぶりや性格、家族との関係性を伺い理解し、その方に合った支援の方法を話あっている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族会を年に2度開催し、報告し、理解、協力を得ている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会、運営推進会議、笑みちゃんカフェ等様々な機会を作っている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	リスクについての説明は面会時や手紙を利用し行っている。家族にも納得して頂いている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	担当者が面会時や手紙等で話を聞いたり伝えている。コミュニケーションを図るよう努めている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者、時には施設長が説明を行い必要に応じて面談を重ねて理解して頂いている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明を行い、家族に理解して頂いている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	具体的に文書にて報告し、同意書を交わしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所を設立する段階から地域住民には説明会を開く等し、理解を得ている	/	○	/	敷地内に代表者が居住しており、地域住民と密な関係を構築している。公民館行事の運動会や文化祭、町内清掃活動に参加したり、定期的に発行する便りを地区住民に届ける活動を続けている。また、近くの小学校や保育園との交流が盛んで、事業所は園児の散コースになっていて、歌や踊りを披露したり、一緒に芋掘りを楽しんでいる。創業の節目に開催した感謝祭には多くの地域住民が参加し、餅まきを賑やかに行う等、地域とは深いつながりができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内清掃活動への参加やイベントに参加し、関係を深めている。又ホームでの行事には案内を出している	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の協力は得られるが、地域の人たちの協力を得るのは難しい	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近隣の保育園児が散歩に来たり、景色がいいと絵を書きに来る地域住民もいる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	月1回広報誌を配っている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	笑いヨガ、カラオケボランティア、地域サロン、ボランティア散髪等の支援を頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	行きつけの美容室や、年1回同級会に参加している。又、図書館に本を借りに行くこともある	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	行事やイベントがある時は、地域の方に案内を出している	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、民生委員、地域の方達は参加がある	/	○	○	運営推進会議には利用者や家族、民生委員、公民館長、サロン世話役、地域包括支援センター職員等が参加して、入居者状況や活動状況報告をして話し合い、情報を共有したり、外部評価の取組み状況について報告し意見等を出してもらっている。避難訓練やヒヤリハット報告、看取り体験報告に対する意見や感想は職員のみにもなっており、サービス向上につなげている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議で外部評価の結果が出た際、目標達成計画を作成し報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告だけでなく、意見や提案を頂き取り組むよう努めている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	テーマに合わせてメンバーは決めておらず、運営推進会議を開催した際、次回の日程を伝えている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	その都度、議事録を作成し、高齢者福祉課に提出している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	毎年各ユニットで理念に基づいた支援目標を職員全体で立て、日常的に取り組むよう努めている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に理念を掲げ、各ユニットのスタッフルームに目標を掲げ、目に触れるようにしている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の力量や、介護職、看護職等職種に合わせて研修をすすめている	/	/	/	代表者は敷地内に居住しており、事業所を頻りに訪れて現状を把握している。リフレッシュ休暇や社内旅行、子どもを産み育てながら働き続けられる制度活用等働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでおり、離職率は低く、職員は良い環境であると感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	年間計画を立て、社内での研修に取り組むよう努めているが、計画通りにはできていない。計画作成担当者においてはプラン作成の研修は行えた	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	毎年、年度末に職員1人1人と面接を行い、個々の努力や勤務状況を把握している。リフレッシュ休暇や社内旅行を計画し、モチベーションの向上に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	相互研修等の研修を通して同業者との交流はできている。同業者との交流で自施設の良い所や改善点を報告し、職員全員で意識を向上させている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	誕生日にはリフレッシュ休暇を設けている。又、勤続年数5年以上の職員に対し、社内旅行に行く等、職員のストレス軽減に努めている	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修を受け、どのような行為が虐待にあたるのか理解している	/	/	/	虐待防止研修を実施して職員が共有し、言葉遣いにも留意している。不適切なケアに気づいた際はその都度注意喚起を行ったり、検討の機会を設けており、職員は対応方法や手順等について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	常に介護の現場には入り、職員から報告を受けている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の職員との会話やケアのやり方に意識を向け、不適切なケアと判断した場合には、代表者・管理者に相談している	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の勤務状況の把握をし、疲労が無いストレスを感じていないか注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	利用者の安全を守る為、身体拘束となる対応をする場合、家族に説明し、同意を得、職員も確認を行っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	状況に応じ、身体拘束の必要性を確認する為、ミーティングで話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	施設や拘束の要望は今のところ出ていない	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修で学んでおり、実際に成年後見制度を利用している利用者もおられ、学ぶ機会がある				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在、利用者・家族からの相談は上がっていない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じ、情報提供は行っている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作成していないが、緊急時の連絡体制は整備している。すぐにかかりつけ医にも連絡がつくような体制となっている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的にAEDの講習を受けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故の一手手前と思われることはヒヤリハットに記載し、その都度職員間で話し合っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の特徴を把握し、考えられるリスクや危険については職員間で話し合い、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成していないが、家族とのやり取りは詳細に記録し、まとめている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	地域や家族から苦情が寄せられた事はあまりないが会話を記録し、必要があれば市町村に相談する				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	今のところ苦情が無い為、対策案の検討は行ったことは無いが、苦情が発生した際は速やかに回答し改善を行って行く				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	2か月ごとに介護相談員が来訪し、利用者の意見や要望をきいている			○	利用者からは、日常会話の中で意見や要望を引き出せるよう努めている。家族は面会時や家族会、運営推進委員会で要望や苦情を表明する機会を設けている。管理者は、日常業務の会話の中から職員の思いを汲み取る努力をしており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じており、日常的に意見交換の場を設けさらなるサービス向上に取り組んでいる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	年に2回家族会を開いている。又、運営推進会議等でも意見や要望、苦情を伝える機会を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初だけで、適宜はおこなっていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	常に現場に足を運び、日常の仕事内容を確認し職員の状態を把握している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	常に現場に入り、状況把握に努めている。職員の意見や提案に耳を傾けている			○	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の説明を行い、職員全員で1人1人自己評価に取り組んでいる	/	/	/	運営推進会議において、外部評価への協力依頼や報告を行っており、全員の家族がアンケートに答え、地域住民の評価も高い。今後はアンケート結果を確実に返すほか、事業所の取り組みについてモニターをしてもらう等、今後の取り組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の内容や結果、課題等は、職員で確認、共有している	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組める内容、実現できる目標を設定している	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議等で報告している。家族へは、郵送をして説明、周知している	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成し、周知している	/	/	/	運営推進会議で防災対策をテーマに取り上げて話し合ったり、市が開催する防災訓練に参加している。大災害が頻発しており、家族や近隣住民、地区組織との協議の機会を持つ等、協力体制をより強固なものにし、緊急災害時の事業所の利用者や近隣住民等の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間想定や様々な状況を想定しての避難訓練を行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災、リスク委員が定期的に行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近隣住民や他事業所との連携や支援体制は図れていないが、地域の消防団や消防署とは連携が取れており、訓練を見て頂き、評価、指導を受けている	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	年に1度地域の共同訓練に参加している。又、災害時の情報伝達訓練や原子力災害の福祉施設受け入れ等を行っている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	月に1度の広報誌に認知症に関する事例や体調管理に関する内容を記載し、情報発信することがあるが、啓発活動には及んでいない	/	/	/	事業所の相談支援についての地域への周知が十分とは言えないため、今後は地域へのPRにも積極的に取り組む等、相談ニーズの充足に努めて欲しい。開設当初より、地域や関係機関との連携を深める取り組みを行って実績を重ねてきており、地域に開かれた事業所になっている。認知症の啓発や相談支援にも努めており、認知症カフェの取組みは関係機関を巻き込んで多くの人々が参加して継続しており優れた実践である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月、見学、相談日を設けている。施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるように努めている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	地域サロン、フラダンス、演奏会、笑みちゃんカフェ、夏祭り、感謝祭等のイベントの際には事業所を開放し、会場として提供、一緒に参加している。又、保育園児の散歩コースにもなっている	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学校を通しての職場体験やボランティアなど、積極的に受入している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	町内清掃の参加や地域イベントには積極的に参加している。他施設との交流を図ったり、通院や相談を通して、協力医や専門機関との連携を図るようにしている	/	/	◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年11月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3890300068
事業所名	グループホームあかり
(ユニット名)	ほたる
記入者(管理者)	
氏名	伊藤加代
自己評価作成日	令和1年10月1日

<p>【事業所理念】 共に生きる 「ユニット目標」 ほたるのような温かい光、温かい笑顔 温かく、ゆったり、寄り添って家族のような温もりのあるユニットづくり。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①ケアプランを基に支援を行い、問題や気づきはあるが、職員間での共有が出来ていない部分があり、個別支援ができていない。→①入居者1人ひとりのケアプランに沿って支援内容を記録し、気づきをユニット会で話し合っており、職員間で共有し、次の支援に繋げている。 ②町内清掃や、外部の防災訓練は参加し、関係作りはできているが、地域に向けて当ホームでの防災訓練への参加の声かけができていない。→②町内清掃への参加は毎年しており、地域の方との関係は広がっている。避難訓練については、時間的な問題で地域の方の参加は難しい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所はかつてゴルフ場であったという広大な芝生の中に立地しており、眼前に宇和島城を望むことができる。近隣住民等も敷地内に自由に入出入りすることができ、魚やパンの訪問販売が訪れている。利用者は掃き出し窓から容易に戸外に出て散歩を楽しんでおり、開放的である。開設当初より地域との交流を大切にして、公民館行事や町内清掃活動に参加したり、近くの小学校や保育園との交流を盛んに行っており、事業所は園児の散コースになっている。定期的に開催する認知症カフェの取組みは、関係機関を巻き込んで継続している優れた実践である。家族の要望に応じて看取りケアを実施しており、看護師を3名配置し、協力医と連携して24時間医療体制を整備して対応している。開放的で自由な環境の中で、利用者一人ひとりが持っている力を活かしながら、自分らしく暮らせるよう努めている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話やケアを通して意向の把握に努めている	◎	/	○	利用者の背景を考慮しながら声かけを行い、思いや希望を引き出せるよう努めている。意思表示が困難な利用者は表情やしぐさから思いを汲み取り、家族にも聞きながら意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族や本人に聞き、ケアに努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に現状報告し、思いをお聞きしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシートや24時間シートを活用し、本人の思いを共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	表情や仕草を観察し、いろいろな視点から見るよう心がけている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	アセスメント作成時、本人や家族から情報を収集している。	/	/	△	入居時に利用者や家族から情報を聴取するとともに、関係機関からの情報や医療情報を収集して、生活歴や暮らしの様子を記録している。利用者の馴染みの暮らし方やこだわり等、入居後に聞き取った情報を追記していくことで、利用者理解がさらに深まることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	現状を把握し、本人の言動や表情など気付いたことを24時間シートに記録し、状態の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	気づきがあれば24時間シートに記入し、職員間で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の申し送りや、その日1日の様子や体調の変化を把握し、不安要因は何かも把握できるよう、努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	健康チェックシートや、24時間シートを確認し、把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のユニット会で、モニタリングと通して本人視点で検討している。	/	/	○	個別性を大切にして、利用者が持っている力を発揮しながら暮らせるよう生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の申し送り、毎月のモニタリングで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会で、本人の希望を聞き、課題を明らかにし、職員全員で目標を決め、ケアプランに記載している。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ユニット会での意見や、本人、家族の意向を基にケアプランを作っている。	/	/	/	介護計画作成担当者が作成した原案をもとに、職員が話し合って介護計画を作成しており、具体的なサービス内容が記載されている。利用者や家族の意向が丁寧に聴取されており、介護計画に反映されるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族の意向を確認し、ケアプランに反映して作成している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	アセスメント・モニタリングを重ね、よりよい日々の過ごし方を検討	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	介護計画を作る際、担当者会議を行い、家族に支え手としての協力は依頼し、盛り込んでいるが、地域の人達の協力体制は今の所盛り込んでいない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランの内容を個人ファイルに貼り付け、職員全員で把握、共有している。	/	/	/	ユニット会議で介護計画の検討を行って内容を理解しており、計画表を個人ファイルに貼付して、常に確認しながら24時間支援記録に実施状況を記載している。日々の暮らしの様子や本人の言葉に注目して記録を残している。現在記録の充実に取り組んでおり、「支援内容と結果、気づき欄」を設けて記録し、モニタリングに反映させるよう努めている。今後は利用者一人ひとりの職員の気づきや工夫、アイデア等記録の充実に努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランに沿って24時間シートに記録し、実践できたかチェックしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	表情や行動は常に把握し、24時間シートに記録している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	24時間シートに、一人ひとりの言動や、気になったことは記録しているが、工夫やアイデアはあまり記録されていない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に1度見直しを行い、状態の変化に応じて行うこともある。	/	/	/	介護計画は6か月毎に見直ししている。毎月開催するユニット会議で計画の実施状況を確認しており、状態に変化がある場合は、その都度変化のない場合も6か月毎に介護計画を見直し、現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月ユニット会で、モニタリングを行って現状確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合は、随時家族、本人と話し合っており、状態に即した新たに計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回の定期的なミーティングと、必要に応じてカンファレンスを行っている。	/	/	/	毎月1回ユニット会を開催して検討しているほか、申し送り時に気づきや提案を出して話し合っている。また、緊急時はその都度協議しており、検討した内容は申し送り項目に記載して共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ミーティングでの意見を反映し、情報共有することで、ケアプランや意見交換に役立っている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月第1、または第2水曜日に、職員全員参加することになっており、勤務表にも日時の記載があるため、全ての職員は把握し、参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	夜勤の職員や体調不良で参加できなかった職員は、ユニットリーダーが伝達している。また議事録を作成し、その確認も行っている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日々の事は日誌や、申し送りで伝達しており、振り返りが必要な場合は連絡ノートの記録したものを確認し、共有している。	/	/	/	利用者の状態の変化や内服薬の変更等、共有すべき情報を申し送りノートや日誌に記載して共有し、サインをして確実に伝達できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	利用者の様子や、業務連絡は申し送りや日誌に記載し伝達しており、家族とのやりとりや、支援に関する細かな情報は連絡ノートに記載して情報共有を行っている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	日々の申し送りや24時間シートに、希望内容を伝え、意向に沿えるように努めているが、日々の業務をこなすことで叶えることが困難。	/	/	/	飲み物のメニュー表を作成して好みの飲み物を選んでもらったり、図書館で借りたい本を選ぶ機会を設けるなど、暮らしの中で自己決定ができるよう支援している。また、利用者一人ひとりが得意分野を活かして役割を發揮できるよう支援しており、職員は感謝やねぎらいの言葉を返して利用者の笑顔を引き出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢の中から自己決定ができるような場を作っている。(飲み物のメニュー表)	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個人個人の会話の中から思いや希望を聞くように働きかけたり、本人が自信をもってできることを暮らしの中から見出すような支援を取組んでいる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	1人1人のペースや習慣を把握し、それに合わせ支援するように努めているが、業務優先になってしまうこともある	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔を忘れず、感謝やねぎらいの言葉を大切にしている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	細かい仕事、表情を身落とさないよう気持ちに寄り添った支援を心がけている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修に参加し人権や尊厳については学んでいる。声かけの仕方、言葉使い、声のトーンに気を付け支援している。	○	◎	○	適宜新人研修を実施して、人権や尊厳について学ぶ機会を設けている。言葉遣いにも気をつけ、威圧感を持たれないよう目線を合わせて会話するよう指導している。トイレ誘導時は耳元で声をかけるよう配慮したり、入浴介助等必要に応じて同姓介護を心がけている。居室ドアは利用者の意向で開閉しており、入室時はノックと声かけを行っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	本人のプライドを傷つけないような声かけの仕方に努めている。特にトイレの誘導や着替え等、耳元でさりげなく声かけて対応している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	カーテンや扉の陰で見守りを行い、いつでも支援できるよう配慮しながら介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	職員が居室に入る前は、声かけ、ノックをして入室するようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時にプライバシーの保護や、守秘義務について研修をおこなっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事のできることを手伝って頂き、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	利用者同士が気にかけて危険を知らせたり、家事を協力し合いながら行う場面が多く見られる。職員は利用者の関係を把握して、トラブルにならないよう適宜介入している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士、声をかけ合ったり、気遣ったり、支えあっていると感じている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士でソファーで談笑できるような環境作りを行っている。また重度の利用者も孤立することがないように配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起きないように支援しているが、不安が生じや時は職員が傾聴し、寄り添うよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	入所前に本人や家族に聞き、入所後は面会に来て頂く友人、親戚より伺って、把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	×	最近の利用者の重度化により地域との関係や馴染みの場所に出かけることが出来なくなったが、以前は理容店や、信仰仲間と外食に出かけていた。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	重度の方が増え、外出支援は難しい	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時にはお茶をお出しし、ゆっくり過ごしていただいたり遠方から帰省した家族さんには居室で宿泊。家族とゆっくり過ごされることもある	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	重度の方が多く、外出することが難しくなった。気候が良い季節には園亭散歩やデッキでの外気浴は行っている。	○	○	○	事業所は平屋の建物で、どこからでも広いデッキに出ることができる構造になっており、利用者が三々五々外気浴に出たり、職員に付き添われて散歩をしている様子が見られた。車いす移動の利用者が増え、遠出は困難になっているが、レンゲやコスモス等季節の花見物に福祉車両を活用して出かけている。重度の利用者も、暖かく風の無い日にはデッキに出て日光浴ができるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	特に外出支援の協力は得ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	デッキに出たり、芝生を散歩するなど気分転換を図っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現状ではできていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修を通して学んでいる。利用者の行動や心理状態の原因がどこにあるか背景を探り取り除くケアができるよう努めている。	/	/	/	見守り介護に努めており、ユニット会でのモニタリングを通して利用者一人ひとりが持っている能力を把握して、過剰な介護にならないよう留意しながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の日課に、リハビリ体操を取り入れている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	業務に支障が出ると感じた場合や、時間がかかる等の理由で、出来る事も手を出してしまう事がある。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活から把握に努めている。	/	/	/	毎日のカレンダーめくりや調理の手伝い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除機やモップかけ等、得意分野を活かして役割を持って生活できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	好きな歌番組を鑑賞したり、他利用者とワーセンバレーを行う等、楽しく過ごせるよう支援している。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	一部の方であるが、近隣の保育園、小学校の行事に参加している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	外出時に好きな服を選んで出かけたり、毛染めをして、身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。				季節に合わない洋服を着ていたり、衣類の汚れに気づいた時は、それとなく声をかけて居室に誘導して着替えてもらっている。利用者は皆清潔でお洒落な服装で過ごしており、外出時は化粧をする利用者もいる。馴染みの美容院へ職員が付き添ったり、ボランティアによる訪問理美容があり、重度の利用者を含め、お気に入り髪型にする等、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ボランティア散髪の際、気に入った髪型にしてもらったり、ご自分で作ったボーチで外出している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が選びやすいようアドバイスしたり、一緒に選ぶなど支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	状況にあった服を、ご本人と相談しながら選んで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを傷つけないよう、さりげなく声かけている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	行きつけのある方は定期的に行っているが、最近は重度化し、行けなくなっている方が多い。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族や、ボランティア散髪の協力を得て、本人らしい身だしなみができている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	季節にあった旬な食材を使ったり、利用者野菜を切ってもらい、一緒に料理することで楽しめるよう工夫をしている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	重度化し、一部のみに限られているが、共に買い物に行ったり、後片付けを行っている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	お手伝いの後には感謝の気持ちを伝え、自信や達成感に繋げている。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に本人、家族から聞き取りを行い、面会に来られた時にも確認している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	メニューは決まっているが、その時の旬な物を使い、季節感を感じて頂いたり、ホームの畑で収穫したさつま芋から、昔の話が出るなど懐かしさを感じていただいている。			○			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	それぞれの状態に合わせた形態や、使いやすい食器などで工夫している。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	今まで使っていた食器を持ってきて頂き使用している。状態にあわせ、使いやすい軽い食器に変えるなど工夫している。			○			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に食事をし1人1人の様子を見守り、必要に応じてサポートを行っている。			◎			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	オープンキッチンで、調理中にはおしゃべりが解りやすくなっている。なおいで食事の時間と理解し、居室から出でる利用者もおられる。		◎	○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	1人1人の食事を把握しており、摂取量が少ないと感じた時は補助食品でカロリーを確保している。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少ない場合は補助食品で補っており、水分摂取量が少ない場合は、のど越しの良いゼリー状の飲み物を提供したり、回数を増やして対応している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理方法は職員間でアドバイスしたり、調べて確認している。献立は管理栄養士によりバランスを考えて作っている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	ハイター消毒や日光消毒、食材は買った日の日付けを書き入れ、早めに使用するよう安全に気を配っている。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科往診の際口腔ケアの必要性や重要性を指導していただいたり、研修に参加して学び、理解できている。	/	/	/	2週に1回歯科医の訪問診療があり、利用者全員の口腔内の健康状態をチェックして指導を受け、口腔ケアに活かしている。毎食後の口腔ケアや毎晩義歯の洗浄を行う等、口腔内の清潔が保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科往診時の記録があり、1人1人の口の中の状態の把握ができる。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士により、指導を頂いている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後義歯の手入れ、うがいの誘導、就寝前は義歯を外し、義歯洗浄剤につけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	健康チェック表に口腔ケアの確認チェックを記載している。利用者に合わせて口腔用スポンジを使い舌の手入れもやっている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯科医に相談し、訪問診療を受けている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄ケアの研修で学んでいる。状況に合わせ、日中はリハビリパンツを使い、トイレで排泄、夜間はポータブルトイレで排泄を行ったり、オムツにする等、意志の疎通が図れる利用者は相談して決めている。	/	/	/	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、日中、夜間ともにトイレで排泄ができるよう支援している。排泄用品を決める際は、その都度利用者の意向を聞いた上で、職員間で話し合いその時の状態に応じた適切な排泄用品を選択する等、現状に即した支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	不眠、不穏、食欲低下など、日中の様子を通し、看護師から説明を受け、理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	トイレ誘導の必要な利用者は、食後や表情で排泄を見極めている。また健康チェック表に記録し、パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	健康状態や、状況に合わせ、話し合っで見直しをしている。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給、運動等取り入れ工夫しているが、改善しない場合はかかりつけ医師に相談している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間を決めて誘導したり、本人の表情や、仕草を見極め声かけを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人、家族に必要性を説明し、まずは本人の意向に沿ったものを使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中はリハビリパンツでトイレに誘導し、夜間はオムツで対応する等状態に合わせて使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	体操や水分補給で自然排便を促しているが、何日も排便がなければ緩下剤や浣腸に頼ることもある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	入浴の有無を確認し、時間の希望も聞いているが、希望に添えていない状況。	/	◎	○	時間帯等職員体制で決めることもあるが、入浴の長さや湯の温度は利用者の好みに合わせる等柔軟に対応している。皮膚の弱い利用者には低刺激のシャンプーを使用したり、それまでの習慣を尊重して洗身部位によりタオルを変える等配慮している。重度の利用者もリフトを活用して湯舟に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個室にて、1対1で支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	浴槽に浸かることが困難な利用者には、特浴を使用している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む場合は無理強いせず、時間を開け再度声かけしたり、事前に会話でコミュニケーションをとって、入りたい気持ちになるよう努めている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェックを行い、顔色や表情を観察し、入浴の可否を決めている。入浴後は必ず水分補給をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームあかり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間は夜勤職員により、1時間に1度の訪室を行い状態確認している。申し送りや、24時間シートで確認し、把握している。				日中を活動的に過ごして、夜間はなるべく眠剤に頼らないで眠れるよう支援しており、眠剤を常用している利用者は少ない。不眠が続く場合は主治医を相談しながら眠剤を調整している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やしたり、日光浴をして体内時計を整える工夫をしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	まずは生活リズムや心身の変化等で検証し、医療機関とも相談の上支援を受けている			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午後、休息の時間をとっている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	荷物が届いた際には、電話をして頂いている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人より要望があれば代筆するなど対応している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話がかかってきた場合は、お繋ぎし、居室でゆっくり話していただいている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し、居室に飾ったり、いつでも読めるように目につく所に置いている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	不穏時に、家族の声を聞くと落ち着く方もいる為、家族に協力をお願いすることもある				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	理解しているが、ホームで管理している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	外への買物は職員が行っている				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	移動販売のパン屋が定期的にホームへきてくださる				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在お金の所持をしていない。希望があれば、家族に相談し、金額など決めて頂く。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時家族と相談し、必要な物品があればホームで管理している小遣いの中で購入している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現金出納帳で管理し、毎月その月の収支をコピーし、家族に送付している。また、家族が面会に来られた際に、出納長と、残金を確認して頂いている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	遠方の家族が帰省時には居室で宿泊する等柔軟に対応できるよう取り組んでいる		◎	○	他科受診に職員が付き添い、病院で家族と待ち合わせて受診している。家族のコンサート鑑賞に出かけたり、職員付き添って墓参りに行くこともある。過去にはキリスト教徒の利用者のために、教会へ日曜礼拝に付き添う等、利用者の意向に沿い柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先の花壇には、季節の花が植えてあり、玄関には、利用者の家族が作成した掲示物を掲げている。	◎	◎	◎	かつてゴルフ場であったという広大な芝生の中に立地しており、外来者も利用者も敷地内に自由に出入りすることができて開放的である。玄関先には花壇が設けられ、季節の花々が植えられている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	対面キッチンになっており、見守り、会話しながら調理ができる。また廊下も広く、歩行器で歩行訓練ができる。壁には季節にあった掲示物を飾っている。	◎	◎	◎	共用空間には、オープンキッチンと椅子席、ソファ席があり、広々として明るい空間になっている。掃き出し窓から容易にデッキや芝の庭に出ることができ、眼前に宇和島城を望む絶景になっている。広い廊下の要所所にソファが設置され、くつろぐことができる。廊下の突き当たりに設けられた図書コーナーには、定期的に市立図書館で借りた図書が並べられており、ベンチに腰掛けて自由に読むことができる。毎日清掃をして環境整備に努めており、清潔な印象を受ける。壁には職員と利用者が作成した桔梗やコスモスのクラフト作品が飾られている等、季節を感じる工夫をしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、掃除を行い清潔に過ぎて頂けるよう努めている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の飾り付け等、利用者さんで行ったり、畑に季節の野菜を育てている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	デッキにはベンチを設置し、気の合う利用者同士で話したりなどしている。またソファでDVDを数人で観ていることもある。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉やカーテンで仕切りをしたり、浴室のトイレには「入浴中」と書いた札を掲げている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所前より使っていた衣類や家具、仏壇など馴染みのものを置き、居心地良く過ごしていただいている。	◎			居室には広いクローゼットと洗面台が設けられ、利用者は机や椅子等馴染みの家具を自由に配置している。テレビやCDプレイヤーを持ち込んだり、人形や花、家族写真を飾る等居心地の良い空間になっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	風呂場やトイレにプレートで解りやすく表示している。また、廊下には手すりを設置し、安心、且つ自立した生活ができるよう配慮している。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	洗剤や消毒液は鍵のかかる扉に保管したり、目の届かない場所に置いている。				事業所内にはバリアフリー構造になっており、広い廊下は車いすを使用する利用者も自由に移動ができる。脱衣場や玄関上がり框に腰掛け椅子を置いて立ち上がり動作が容易にできるよう配慮されている。また、トイレ表示を大きく、立体的看板を設置して分かりやすくしている等、安心して自立した生活が送れるようにしている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	共有スペースに新聞や雑誌を置いて、自由に観たり、夏場は自由に水分補給ができるよう麦茶を設置している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関は施錠はせず、チャイムを設置しており、ユニット間の扉も開放しているため、自由に行き来ができ、心理的不安や、閉塞性はないと感じる。	◎	◎	◎		職員は施錠も拘束になることを理解しており、日中玄関やユニット入り口は施錠されおらず、自由に行き来することができるほか、掃き出し窓からも出入りすることができる。帰宅願望の強い利用者に対しては、一緒に歩いたり、自宅付近までドライブしたり、見守り体制を強化する等の工夫をし対応している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所の際、家族に説明し、理解を得ている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	施錠なく、チャイムで対応している。また他ユニットと連携しながら対応している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	最初にフェイスシートで把握し、病状の変化がある時には申し送りやカンファレンスを行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックし、健康チェック表に記載。特変あれば2日誌に記載し、看護師に相談している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	各ユニットに看護師が配置されており、気になることがあれば協力医に相談できる体制を作っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	家族に確認し、希望があればそちらを優先している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族に確認をとり、協力医と相談した上で適切な医療がうけられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診には家族も同行して頂き、同行できない時は電話にて報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供や本人の状態がわかるように、口頭で伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	頻回に見舞いに行き、病院側ともコミュニケーションをとっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	定期的な通院。時にソーシャルワーカーと情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	各ユニットに看護師が配置されており、少しの変化でも相談ができる。必要に応じ、協力医にも相談できる。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医、看護師と日頃より連携を取っている。協力医は緊急時でも快く対応して頂いている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェックを行う事で、少しの変化に気づき早めに治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	1人1人の内服の状況の表を作成し、目的、用法、要領は理解しているが、副作用は理解しているとは言えない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝、昼、夕、就寝前と個別に分け、飲み忘れや誤薬を防いでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬変更時は、特に注意し他職員と確認し、内服している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態や変化は記録に残し、状態に応じ、協力医に相談している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に概ね説明している。状態に変化があった時その都度家族と医師との話し合いの場を設け、家族の意思や方針の確認を行っている。	/	/	/	開設当初より家族の要望に応じて看取りケア実施しており、看護師を3名配置し、協力医と連携して24時間医療体制を整備して対応している。様態の変化があればその都度、家族と医療関係者が話し合い、方針を共有しながら看取りケアを実施しており、食事や寝具を用意して家族が泊まれるよう配慮して協力しながら看取りをしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	必要に応じ、カンファレンスを行い、情報を共有し、方針を伝えている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	重度化、終末期の対応に経験が浅く、不安を感じている職員は少ない。連絡体制を整え、常に声かけ、説明を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に家族に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	必要に応じ、カンファレンスを行い、情報を共有し、方針を伝えている。協力医や、時に訪問看護を導入し、医療との連携を取りながら本人や家族を支えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いに耳を傾け、介護職、看護職それぞれの立場で心理的支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修で学ぶ機会があり、看護師からも指導がある。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修で学んだ事をマニュアル化し、ミーティングなどで伝達している。また、感染予防用セットも準備し、看護師の指導もある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や医療機関の研修に参加し、取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の流行の兆しが見え始めると、協力医と相談しワクチン接種やマスクの着用、アルコール消毒の徹底をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関、各ユニットリビングに消毒液、マスクを設置し、使用を徹底、また来客者にも使用をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	正直に現状を伝え、家族もチームの一員として携わっていただくよう接している。	/	/	/	花見、夏祭り、敬老会等の行事を掲示板や便りで案内して家族と一緒に支援をしたり、楽しんでもらっており、行事の後に家族会を開催して話し合いや交流の機会を設けている。毎月便りを発行し、担当職員から手書きの手紙を添えて状況を伝えるほか、県外に住む家族へは、電話で状況を伝えている。事業所の運営面や職員の異動等については、年2回の家族会や面会時に説明したり、遠方の家族には郵送で報告している。家族面会時は必ず声をかけて話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の状況を報告したり家族からの要望等を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ゆっくりと過ごして頂けるような環境作りはできている。遠方から変えられた家族は宿泊される方も多い。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭りや花見、敬老会など行事に参加して頂いたり、時にはおせち料理作りに参加する事もある。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月の広報で写真を掲載し暮らしぶりを見て頂いたり、月1回の手紙で近況を伝えている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	家族が面会に来られた際気になっている事や心配な事をお聞きし電話等でその後の経過報告等行うよう始めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	入所に至るまでの暮らしぶりや性格、家族との関係性を伺い理解し、その方に合った支援の方法を話あっている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族会を年に2度開催し、報告し、理解、協力を得ている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会、運営推進会議、笑みちゃんカフェ等様々な機会を作っている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	リスクについての説明は面会時や手紙を利用し行っている。家族にも納得して頂いている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	担当者が面会時や手紙等で話を聞いたり伝えている。コミュニケーションを図るよう努めている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者、時には施設長が説明を行い必要に応じて面談を重ねて理解して頂いている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明を行い、家族に理解して頂いている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	具体的に文書にて報告し、同意書を交わしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所を設立する段階から地域住民には説明会を開く等し、理解を得ている	/	○	/	敷地内に代表者が居住しており、地域住民と密な関係を構築している。公民館行事の運動会や文化祭、町内清掃活動に参加したり、定期的に発行する便りを地区住民に届ける活動を続けている。また、近くの小学校や保育園との交流が盛んで、事業所は園児の散コースになっていて、歌や踊りを披露したり、一緒に芋掘りを楽しんでいる。創業の節目に開催した感謝祭には多くの地域住民が参加し、餅まきを賑やかに行う等、地域とは深いつながりができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内清掃活動への参加やイベントに参加し、関係を深めている。又ホームでの行事には案内を出している	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の協力は得られるが、地域の人たちの協力を得るのは難しい	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近隣の保育園児が散歩に来たり、景色がいいと絵を書きに来る地域住民もいる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	月1回広報誌を配っている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	笑いヨガ、カラオケボランティア、地域サロン、ボランティア散髪等の支援を頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	行きつけの美容室や、年1回同級会に参加している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	行事やイベントがある時は、地域の方に案内を出している	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、民生委員、地域の方達は参加がある	/	○	/	運営推進会議には利用者や家族、民生委員、公民館長、サロン世話役、地域包括支援センター職員等が参加して、入居者状況や活動状況報告をして話し合い、情報を共有したり、外部評価の取組み状況について報告し意見等を出してもらっている。避難訓練やヒヤリハット報告、看取り体験報告に対する意見や感想は職員の励みにもなっており、サービス向上につながっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議で外部評価の結果が出た際、目標達成計画を作成し報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告だけでなく、意見や提案を頂き取り組むよう努めている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	テーマに合わせてメンバーは決めておらず、運営推進会議を開催した際、次回の日程を伝えている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	その都度、議事録を作成し、高齢者福祉課に提出している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	毎年各ユニットで理念に基づいた支援目標を職員全体で立て、日常的に取り組むよう努めている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に理念を掲げ、各ユニットのスタッフルームに目標を掲げ、目に触れるようにしている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の力量や、介護職、看護職等職種に合わせて研修をすすめている	/	/	/	代表者は敷地内に居住しており、事業所を頻回に訪れて現状を把握している。リフレッシュ休暇や社内旅行、子どもを産み育てながら働き続けられる制度活用等働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでおり、離職率は低く、職員は良い環境であると感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	年間計画を立て、社内での研修に取り組むよう努めているが、計画通りにはできていない。計画作成担当者においてはプラン作成の研修は行えた	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	毎年、年度末に職員1人1人と面接を行い、個々の努力や勤務状況を把握している。リフレッシュ休暇や社内旅行を計画し、モチベーションの向上に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	相互研修等の研修を通して同業者との交流はできている。同業者との交流で自施設の良い所や改善点を報告し、意識を向上させている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	誕生日にはリフレッシュ休暇を設けている。又、勤続年数5年以上の職員に対し、社内旅行に行く等、職員のストレス軽減に努めている	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修を受け、どのような行為が虐待にあたるのか理解している	/	/	/	虐待防止研修を実施して職員が共有し、言葉遣いにも留意している。不適切なケアに気づいた際はその都度注意喚起を行ったり、検討の機会を設けており、職員は対応方法や手順等について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	常に介護の現場には入り、職員から報告を受けている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の職員との会話やケアのやり方に意識を向け、不適切なケアと判断した場合には、代表者・管理者に相談している	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の勤務状況の把握をし、疲労が無いストレスを感じていないか注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	利用者の安全を守る為、身体拘束となる対応をする場合、家族に説明し、同意を得、職員も確認を行っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	状況に応じ、身体拘束の必要性を確認する為、ミーティングで話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	施設や拘束の要望は今のところ出ていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修で学んでおり、実際に成年後見制度を利用している利用者もおられ、学ぶ機会がある				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在、利用者・家族からの相談は上がっていない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じ、情報提供は行っている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作成していないが、緊急時の連絡体制は整備している。すぐにかかりつけ医にも連絡がつくような体制となっている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的にAEDの講習を受けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故の一手手前と思われることはヒヤリハットに記載し、その都度職員間で話し合っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の特徴を把握し、考えられるリスクや危険については職員間で話し合い、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成していないが、家族とのやり取りは詳細に記録し、まとめている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	地域や家族から苦情が寄せられた事はあまりないが会話を記録し、必要があれば市町村に相談する				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	今のところ苦情が無い為、対策案の検討は行ったことは無いが、苦情が発生した際は速やかに回答し改善を行って行く				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	2か月ごとに介護相談員が来訪し、利用者の意見や要望をきいている			○	利用者からは、日常会話の中で意見や要望を引き出せるよう努めている。家族は面会時や家族会、運営推進委員会で要望や苦情を表明する機会を設けている。管理者は、日常業務の会話の中から職員の思いを汲み取る努力をしており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じており、日常的に意見交換の場を設けさらなるサービス向上に取り組んでいる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	年に2回家族会を開いている。又、運営推進会議等でも意見や要望、苦情を伝える機会を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初だけで、適宜はおこなっていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	常に現場に足を運び、日常の仕事内容を確認し職員の状態を把握している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	常に現場に入り、状況把握に努めている。職員の意見や提案に耳を傾けている			○	

愛媛県グループホームあかり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価には説明を行い、職員全員で1人1人自己評価に取り組んでいる	/	/	/	運営推進会議において、外部評価への協力依頼や報告を行っており、全員の家族がアンケートに答え、地域住民の評価も高い。今後はアンケート結果を確実に返すほか、事業所の取り組みについてモニターをしてもらう等、今後の取り組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の内容や結果、課題等は、職員で確認、共有している	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組める内容、実現できる目標を設定している	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議等で報告している。家族へは、郵送をして説明、周知している	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成し、周知している	/	/	/	運営推進会議で防災対策をテーマに取り上げて話し合ったり、市が開催する防災訓練に参加している。大災害が頻発しており、家族や近隣住民、地区組織との協議の機会を持つ等、協力体制をより強固なものにし、緊急災害時の事業所の利用者や近隣住民等の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間想定や様々な状況を想定しての避難訓練を行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災、リスク委員が定期的に行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近隣住民や他事業所との連携や支援体制は図れていないが、地域の消防団や消防署とは連携が取れており、訓練を見て頂き、評価、指導を受けている	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	年に1度地域の共同訓練に参加している。又、災害時の情報伝達訓練や原子力災害の福祉施設受け入れ等を行っている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	△	月に1度の広報誌に認知症に関する事例や体調管理に関する内容を記載し、情報発信することがあるが、啓発活動には及んでいない	/	/	/	事業所の相談支援についての地域への周知が十分とは言えないため、今後は地域へのPRにも積極的に取り組む等、相談ニーズの充足に努めて欲しい。開設当初より、地域や関係機関との連携を深める取り組みを行って実績を重ねてきており、地域に開かれた事業所になっている。認知症の啓発や相談支援にも努めており、認知症カフェの取組みは関係機関を巻き込んで多くの人々が参加して継続しており優れた実践である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月、見学、相談日を設けている。施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるように努めている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	地域サロン、フラダンス、演奏会、笑みちゃんカフェ、夏祭り、感謝祭等のイベントの際には事業所を開放し、会場として提供、一緒に参加している。又、保育園児の散歩コースにもなっている	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	職場体験やボランティア等、要望があれば積極的に受け入れている	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	町内清掃の参加や地域イベントには積極的に参加している。他施設との交流を図ったり、通院や相談を通して、協力医や専門機関との連携を図るようにしている	/	/	◎	